

光星「青森代表し結果残す」

本社来訪 センバツへ意気込み



センバツでの健闘を誓う八学光星の(左から)和田、北口、横山=19日、青森市の東奥日報社

第98回選抜高校野球大会(センバツ)、3月19日開幕、甲子園球場(兵庫県西宮市)に出場する八戸学院光星野球部の選手らが19日、青森市の東奥日報社を訪れ「青森、東北代表としてふさわしい結果を残す」と意気込みを語った。

同校のセンバツ出場は2年ぶり12度目。昨秋の県大会では試合を重ねるごとにチームの完成度を高めた。東北大会決勝で花巻東(岩手)に敗れたものの、エースで主将の北口晃大の威力ある直球や完投能力の高さに加え、二遊間を中心としたまとまった守備や活発な上位打線のつながりなど力量を発揮した。

この日は中村良寛校長、仲井宗基監督のほか、

奥丁画
東NE動



北口、捕手の和田陽貴(はると)、内野手の横山陽士(ひつと)の3選手らが本社の月館真司編集局長と懇談した。

チームは「主将の北口中心」と評されることが多いが、仲井監督は冬場のテーマに「北口からの脱却」を掲げ、東北大会で課題となった機動力の強化や、北口に次ぐ2番手投手の育成などを軸に調整してきた。

仲井監督は「昨年末の

地震や大雪でなかなか明るい話題がない。温かいニュースを届けられるように頑張るので期待してほしい」と語った。

北口は「自分たちの野球をして、『一戦必勝』で戦う姿を県民に届けたい」と話し、横山も「県民の皆さまの期待に応えられるよう一生懸命頑張る」と力を込めた。組み合わせ抽選会は3月6日に行われる。

(田中飛路)